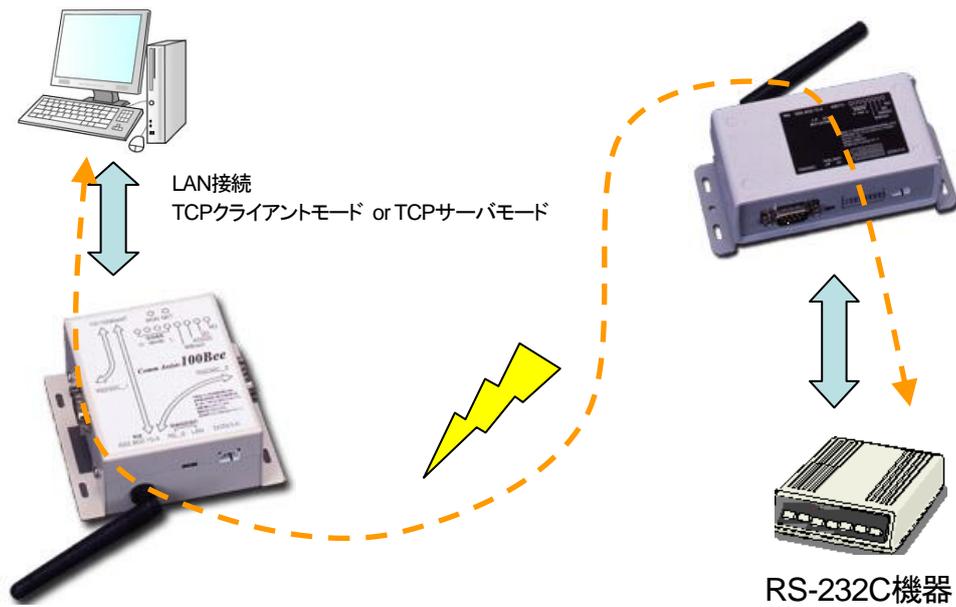


## 1:1のピアツーピア接続の場合

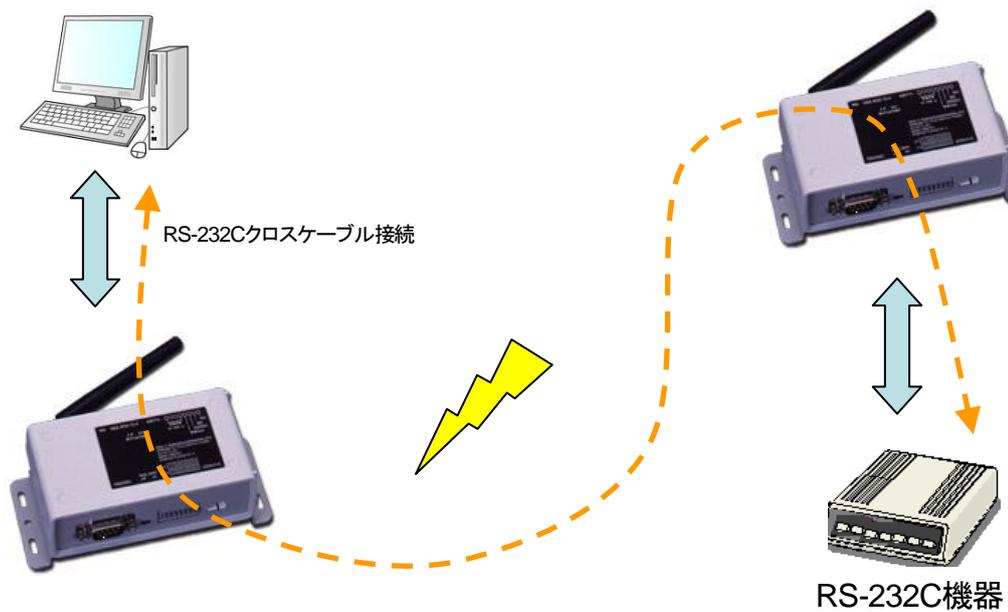
### (1) LANを使用してBeeCom経由でRS-232C機器と通信する場合

PCとCA100Bee間でTCPセッションを行い、CA100Beeの送信先に設定されているBeeComを経由してRS-232C機器と通信を行うことが可能です。



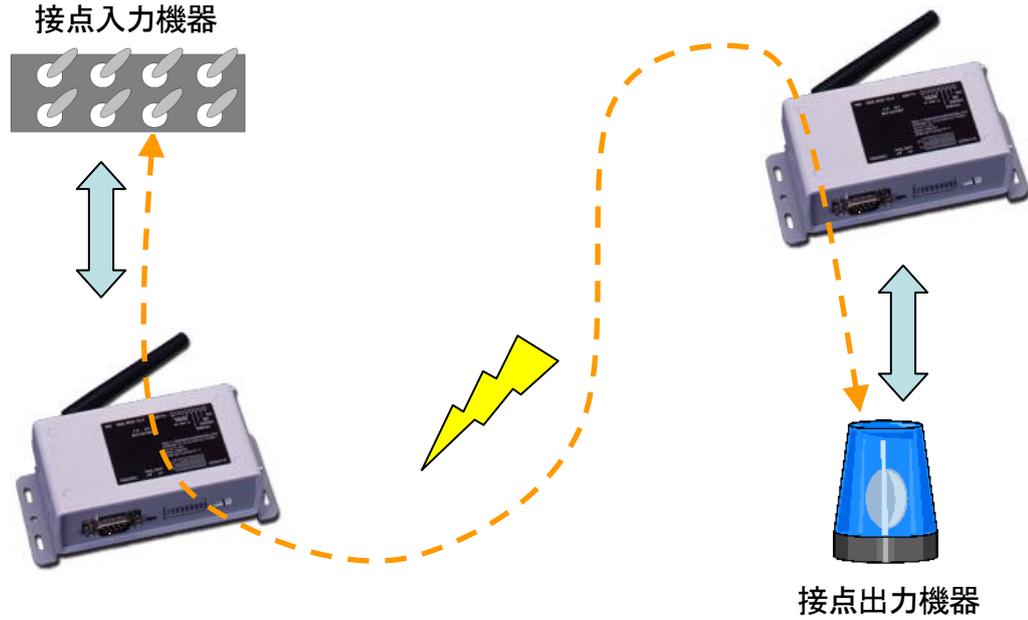
### (2) BeeCom 対向で RS-232C 機器と通信する場合

PCとBeeCom間をRS-232Cクロスケーブルで接続を行い、送信先に設定されているBeeComを経由してRS-232C機器と通信を行うことが可能です。



(3) BeeCom 対向で接点入力機器から接点出力機器へ通信する場合

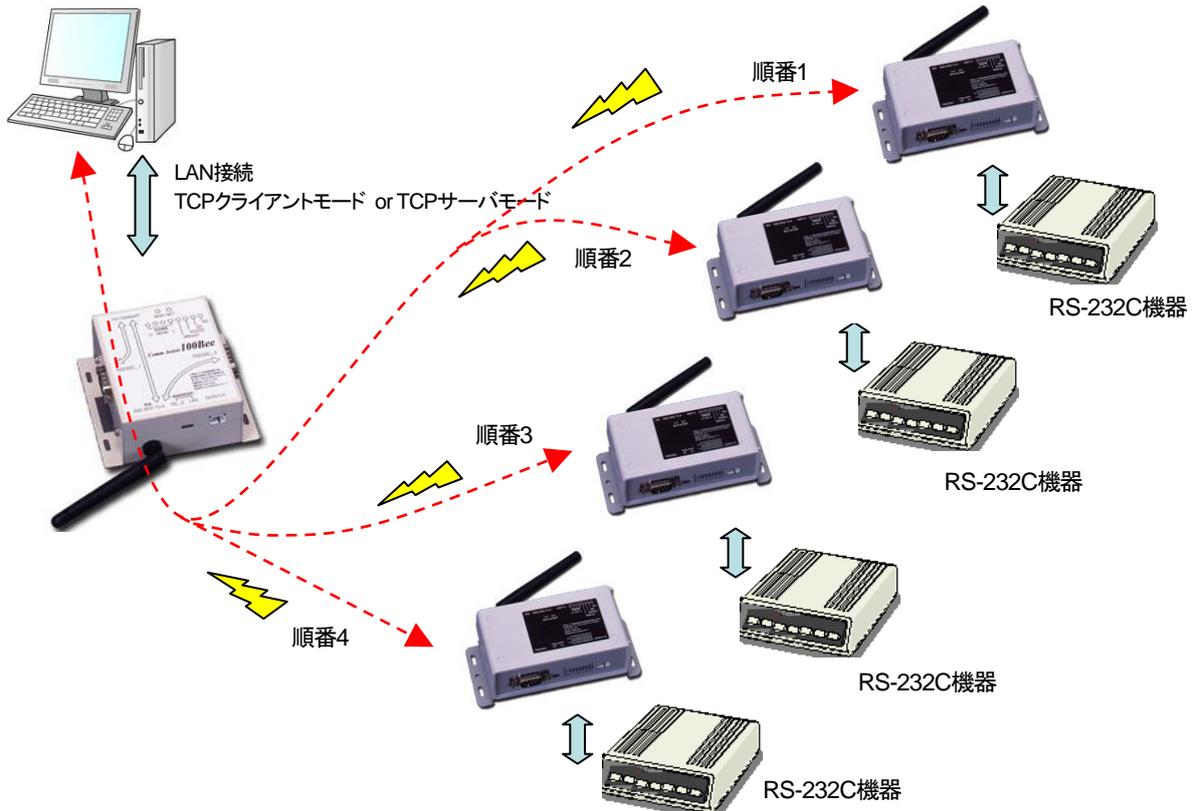
接点入力機器と BeeCom、送信先の BeeCom と接点出力機器を RS-232C クロスケーブルで接続を行い、接点入力機器から接点出力機器に対して命令を送信することが可能です。



1 : n のマルチ接続の場合

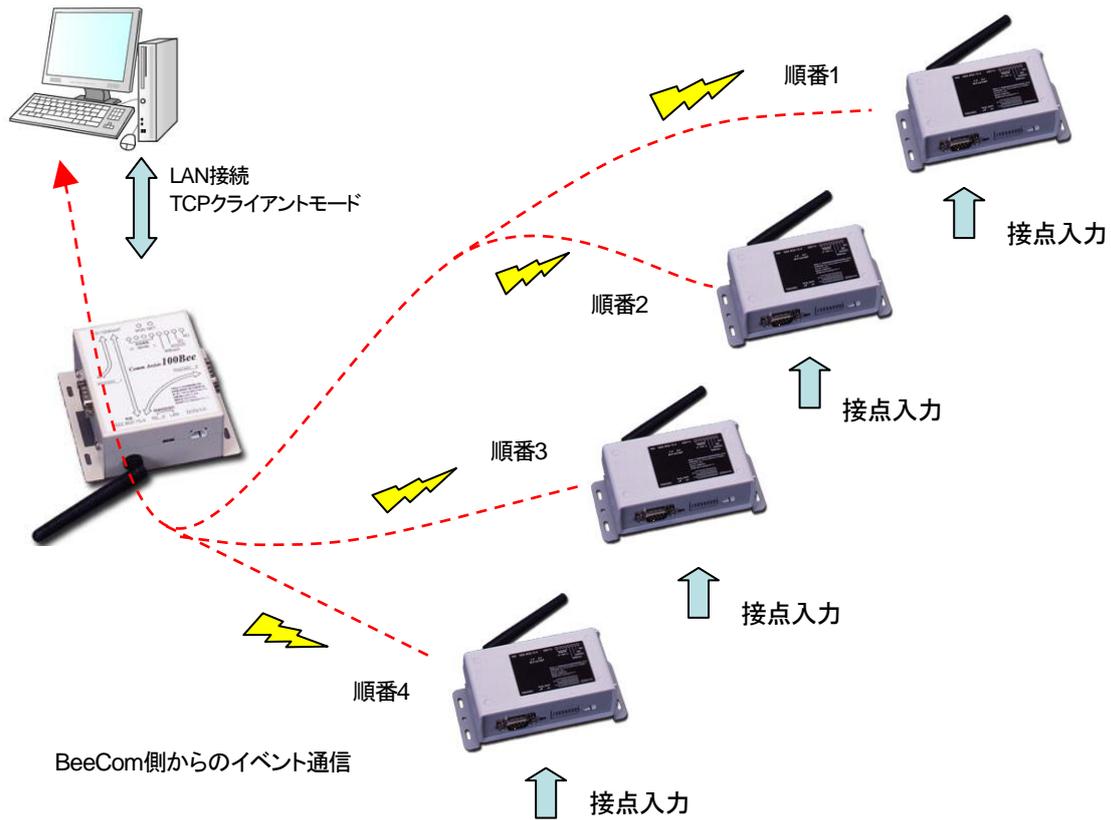
(1) BeeCom 経由で RS-232C 機器と通信する場合

1対1のピアツーピア接続時のCA100Beeに接続しているRS-232C機器と通信する場合とは異なり1対nで行うことが可能です。



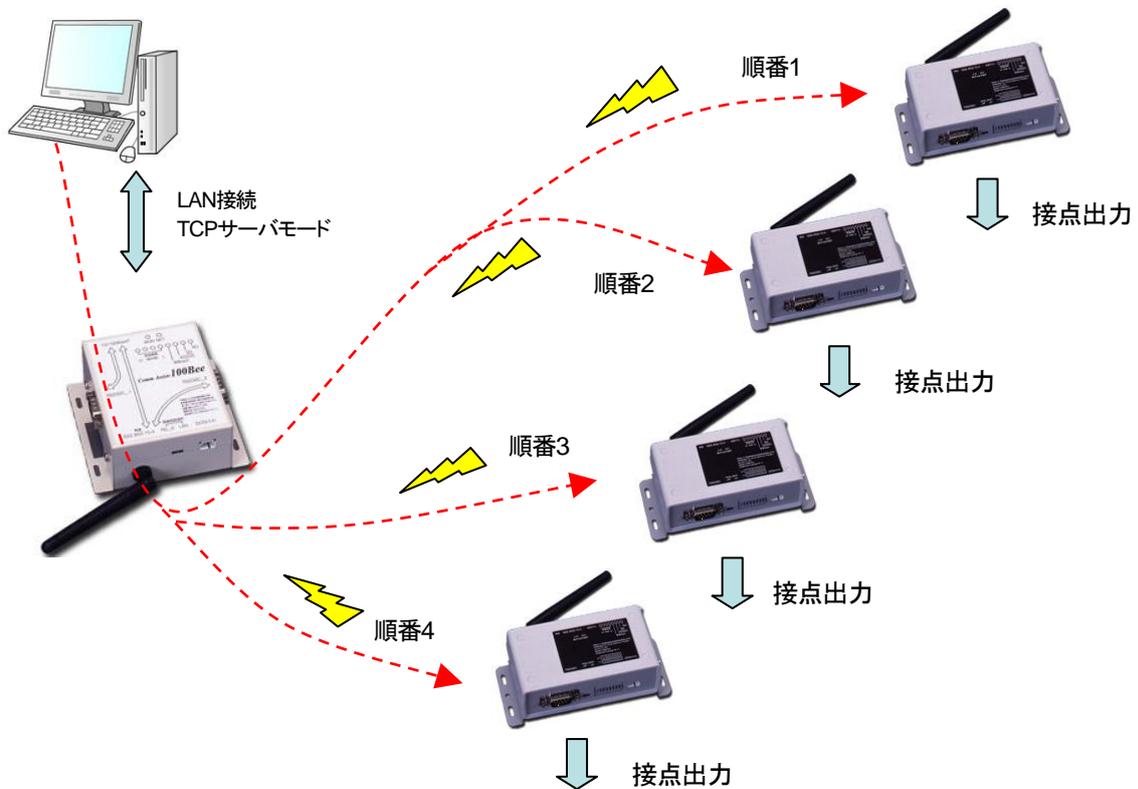
(2) BeeCom を接点入力機器として使用する場合(TCP クライアント)

BeeCom に接続されている接点機器からの入力データがイベントとして起こり、BeeCom へと上がり、CA100Bee へデータが流れます。CA100Bee はデータ取得後、PC とセッションを確立しデータが PC へと流れます。



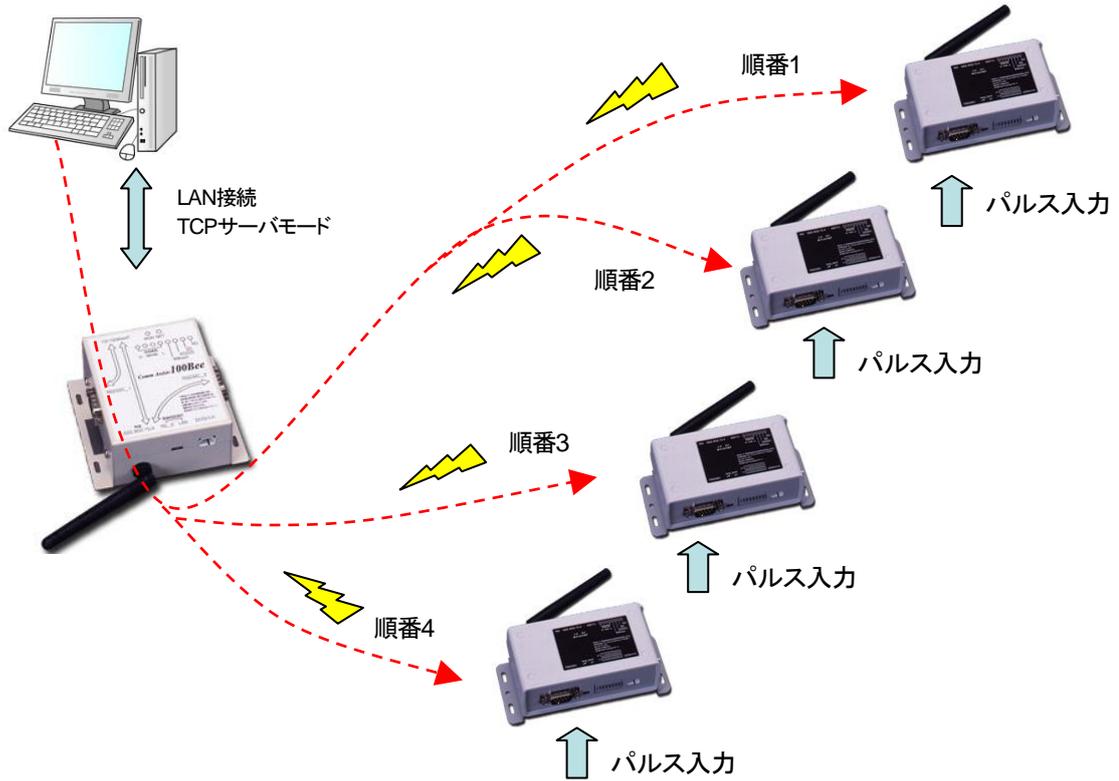
(3) BeeCom を接点出力装置として使用する場合(TCP サーバ)

PC から CA100Bee へセッションを確立し、CA100Bee から BeeCom を経由して接点機器へ出力要求のデータが流れます。



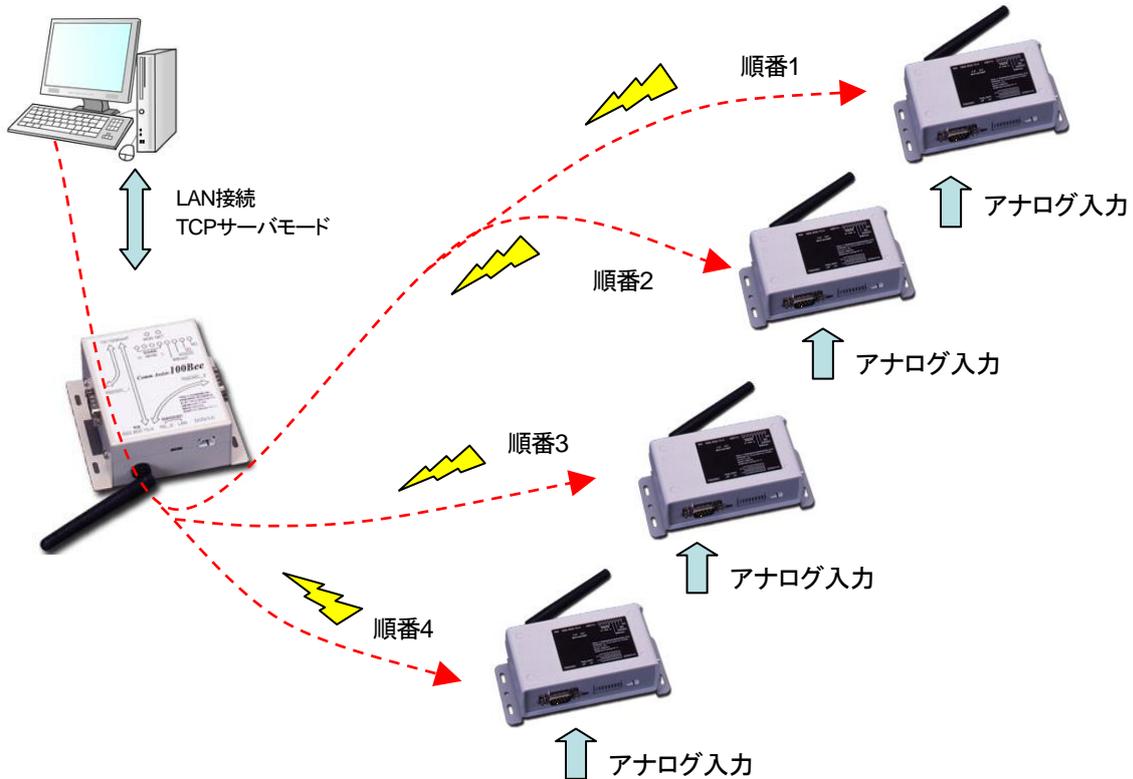
(4) BeeP2A1 をパルス入力装置として使用する場合 (TCP サーバ)

PC から CA100Bee へセッションを確立し、CA100Bee から BeeP2A1 のパルス積算値を取得します。  
※BeeP2A1 は接続されているパルス入力機器の値を積算値として保持しています。



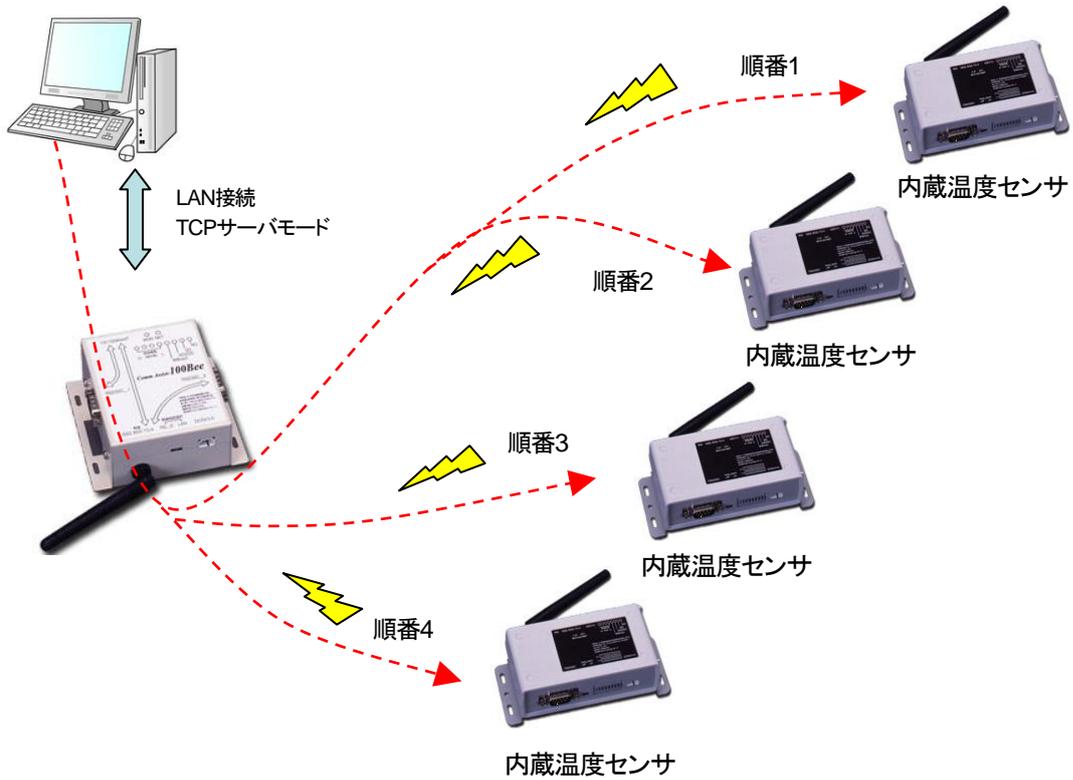
(5) BeeP2A1 or BeeA2 をアナログ入力装置として使用する場合 (TCP サーバ)

PC から CA100Bee へセッションを確立し、CA100Bee から Bee を経由してアナログ入力機器の値を取得します。



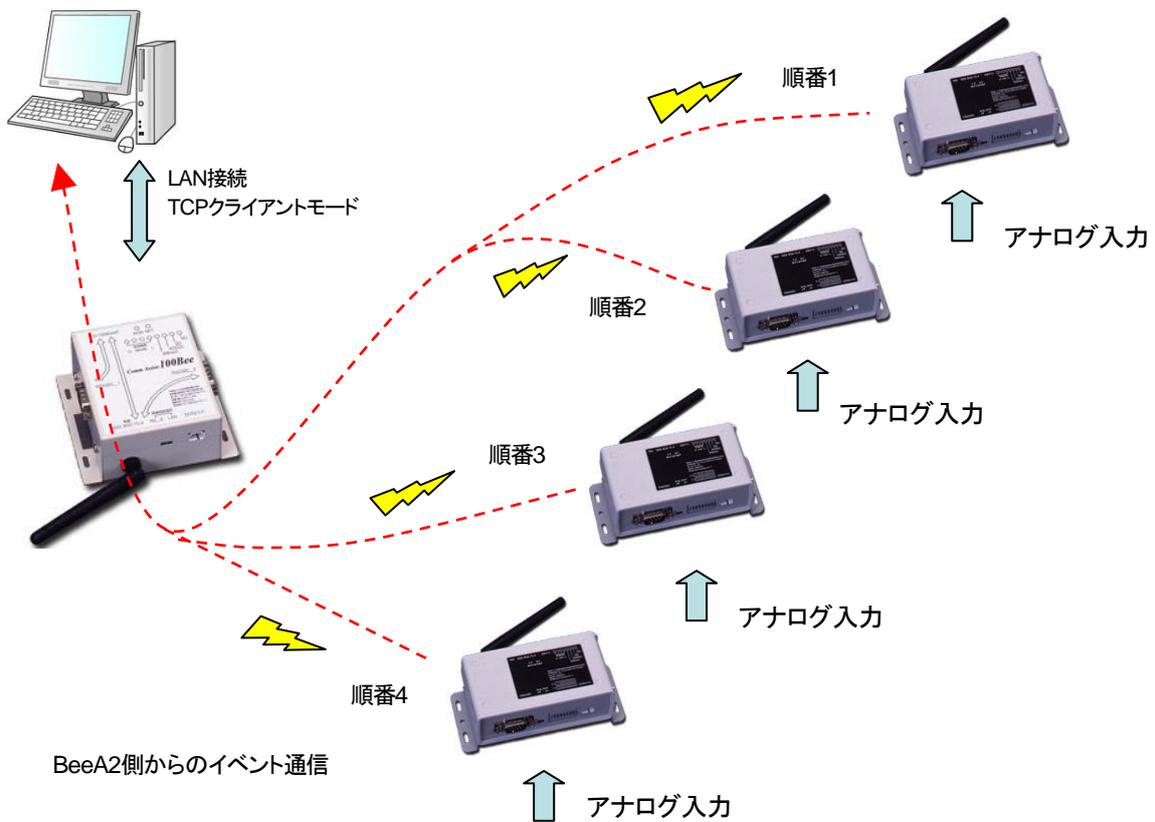
(6) BeeA2を温度測定装置として使用する場合 (TCPサーバ)

PCからCA100Beeへセッションを確立し、CA100BeeからBeeA2を経由して内蔵されている温度センサの値を取得します。



(7) BeeA2をアナログ入力装置として使用する場合(TCPクライアント)

BeeA2をアイドルモードで使用した場合、設定した周期でBeeA2が起床し、接続されているアナログ入力機器の値を取得して、CA100Beeへデータを送信します。CA100Beeはデータ取得後、PCとセッションを確立しデータがPCへと流れます。



(8) BeeA2 を温度測定装置として使用する場合(TCP クライアント)

BeeA2 をアイドルモードで使用した場合、設定した周期で BeeA2 が起床し、内蔵されている温度センサの値を取得して、CA100Bee へデータを送信します。CA100Bee はデータ取得後、PC とセッションを確立しデータが PC へと流れます。

